

関わり続ける定住のカタチの実践による
「結の故郷」づくりに向けた基礎的研究

令和5年3月

関西大学 環境都市工学部

報告書構成

- 1) 今後のまちづくりに関わる高校生を中心に市民意識の醸成に関する実践的活動
- 2) 地元団体との協働による横町スタジオの運営と研究活動
- 3) 県内大学を対象とした関わり続ける定住の実践と定着
- 4) 関西大学生と市民との協働による城下町エリアの暮らし方再発見と情報発信の実施

今後のまちづくりに関わる高校生を中心に
市民意識の醸成に関する実践的活動

目次

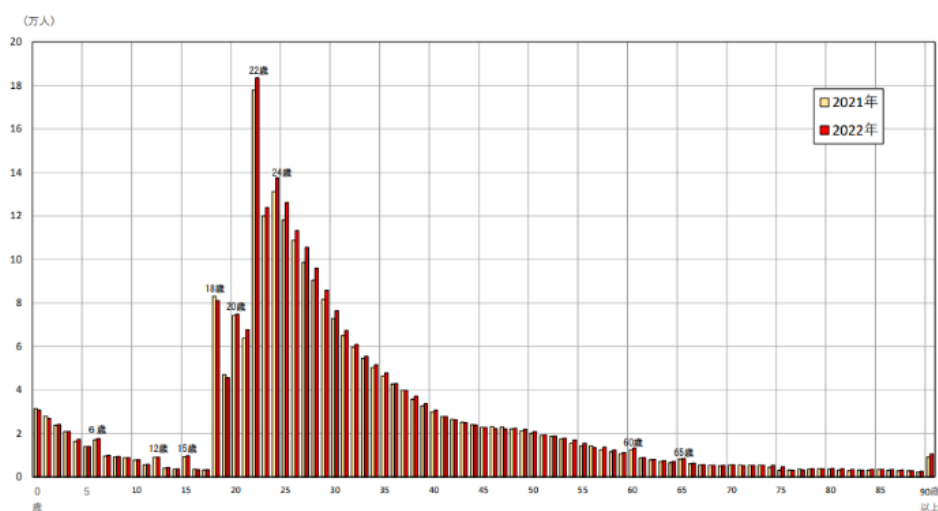
第1章 はじめに	1
1.1 背景	1
1.2 若年層の地域移動に関する既存研究	2
1.3 高校生の地域愛着形成に関する既存研究	2
1.4 研究の目的	2
第2章 本研究の位置づけ	3
2.1 大切な場所を可視化した既存研究	3
2.2 2021年度福井県立大野高等学校1年生アンケート分析の結果	3
第3章 本研究で検証する仮説・各要素の定義づけ	5
3.1 本研究の仮説	5
3.2 本研究での各要素の定義	5
第4章 研究方法	6
4.1 研究方法	6
4.2 アンケート概要	6
第5章 アンケート分析結果	9
5.1 学年(問1)	9
5.2 居住地(問2)	9
5.3 選択式高校生の大切な場所(問3)	9
5.4 選択式高校生の大切な場所の選択理由(問4)	9
5.5 自由記述式高校生の大切な場所(問5)	10
5.6 自由記述式高校生の大切な場所の選択理由(問6)	12
5.7 大切な場所の地図上への可視化	14
5.8 高校生の定住したい街(問7)	20
5.9 高校生の大野市に対する地域愛着の有無(問8)	21
5.10 定住したい街と地域愛着の相関関係と共分散構造分析	22
5.11 地域愛着に与える要因分析	25
5.11.1 「個人的な評価→地域愛着あり→思い出がたくさんある街」のモデル	25
5.11.2 「社会的な評価→地域愛着あり→社会や世間からの評判がいい街」のモデル	26
第6章 おわりに	28
6.1 本研究のまとめ	28
6.2 今後の課題	28
参考文献	30

第1章 はじめに

1.1 背景

総務省統計局¹によると、2023年1月1日現在の総人口は、2022年1月から53万人減少した。人口減少の原因は、出生率の低下に加えて、転出率の増加である。主な転出先は、東京圏、名古屋圏及び大阪圏の3大都市圏である。人口減少がもたらす問題点としては、生活関連サービスの縮小、税収源による行政サービス水準の低下、地域公共交通の撤退・縮小、空き家や空き店舗等の増加により日常生活に不便が生じることである。そのため、地方自治体は、Uターンの支援や移住定住に力を入れている。

図1の年齢各歳別都道府県間移動者数から分かるように、「若者」と呼ばれる10代後半から20代での移動が多い。また、この図1から、都道府県間移動の大きなきっかけとして、1つ目は高校卒業後の進学・就職があり、2つ目は大学等卒業後の就職があると分かる。都道府県内移動者数も同様の傾向がある。総務省統計局の2022年住民基本台帳人口移動報告²によると、都道府県間移動者数は22歳が最も多く、都道府県内移動者数は25歳が最も多い。



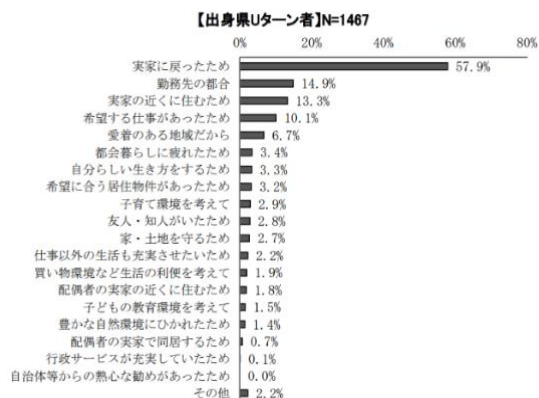
出典：総務省統計局

図1 年齢各歳別都道府県間移動者数（2021年、2022年）

2014年9月から政府が進めてきた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」³という地方創生の政策がある。この政策では、長期ビジョンとして2つ考え方があり、1つ目は、「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」という負のスパイラルを克服することである。2つ目は、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立するとともに、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すことである。このように、地域に若年層が定着・UIJターンのための取り組みが国全体の政策課題となっている。

1.2 若年層の地域移動に関する既存研究

独立法人労働政策研究・研究機構による「UIJ ターンの促進・支援と地方の活性化—若年期の地域移動に関する調査結果—(2016)」⁴は、出身地と現在までの地域移動経験と、居住地域区分(地方圏, 大都市圏)に基づいて区分設定をし、調査を行ったものである。地方圏出身で、地域移動を経験した後、出身地と同じ地域に住んでいる「U ターン者」と、出身地とは異なる地域に住んでいる「出身県外居住者」はともに、「大学・大学院進学」という転出理由が、それぞれ



出典：独立法人労働政策研究・研究機構

図2 出身県へのUターンの理由(複数回答)

49.7%, 50.0%と約半数を占めていた。次に多い転出理由は、「就職」であり、年齢は18歳に集中していた。出身地を離れた理由は、「地元には進学を希望する学校がなかった」がそれぞれ36.8%, 35.8%で最も多い理由であった。「Uターン者」のUターンのタイミングは「就職」が30.4%と最も多く、次に「仕事を辞めた」が19.0%であった。図2より、Uターンの理由としては、「実家に戻ったため」が57.9%であり、圧倒的に多い理由となっていた。その中でも、「愛着のある地域だから」という理由は6.7%を占めていた。

1.3 高校生の地域愛着形成に関する既存研究

藪谷ら⁵は、高校生の通学時における地域接触に着目し、地域愛着が高い高校生は、人や自然との接触機会が多くある公園に寄り道する傾向を明らかにした。一方で、地域愛着が低い高校生は、コンビニに寄り道をする傾向があり、人や自然との接触機会が少ないことが分かった。このようなことから、通学路に自然豊かで人との交流が生まれやすい公園を計画することで高校生の地域愛着形成に繋がるのではないかと提案した。

また、地域愛着の高い高校生ほど、Uターンしたいと考えている結果が出た。このことから、子供の頃の地域愛着形成が将来のUターン促進に有効である可能性を示した。

1.4 研究の目的

藪谷らの研究は、高校生に焦点を当てたものであった。しかし、地域愛着形成に繋がる期間であり、転出する理由の大学進学や就職を決める年齢にあたる高校生に焦点をあてた論文は充分ではない。また、関西大学環境都市工学部が大野高校の当時1年生(大野市出身)を対象に実施したアンケート(伊東(2021))⁶の結果では、高校生が魅力的に思う地域資源への理由の特徴について触れられていない。

そこで本研究では、次の4つの目的を設定した。1つ目は、高校生特有の文化から生まれる大切な場所を明確にすること、2つ目は、高校生に大切な場所として選ばれる条件を発見すること、3つ目は、高校生が定住したいと思う街は「外部からの社会的な評価」と「個人の思い出や実体験」のどちらが影響しているか明らかにすること、4つ目は、地域愛着と定住の関係性を示すことである。

第2章 本研究の位置づけ

2.1 大切な場所を可視化した既存研究

木場らは、「大切な場所」の可視化することはまちづくりにおいて必要不可欠であり、自宅以外に「大切な場所」があることで、地域への愛着が醸成されると考え、東京都大田区大岡山・千束地区を対象に「大切な場所」のアンケートを実施した。その結果、大岡山・千束地区に122か所の大切な場所が確認でき、大切に思う理由を10の分類に分けることができた。「場所の特徴を示すもの」、「場所と個人の関係を示すもの」、「他者の存在により生じるもの」によって大切に感じている傾向が見られた。この研究で得られた自由記述式の大切に思う理由を、後に示す本研究でのアンケート作成の参考にしている。具体的には、「自然を感じられる場所である」、「子どもの頃や家族との思い出の場所である」、「地域のシンボルである/地域の顔となっている」などの意見があったため、アンケートの選択肢に盛り込んだ。また、本研究では大切に思う理由の特徴が「外部からの社会的な評価」と「個人の思い出や実体験」のどちらが影響しているのかを明らかにしたいため、選択肢の分類はあらかじめしておく。

この研究では、年齢や居住年数の属性傾向によって大切な場所を選ぶ傾向が違うことが分かった。若い世代は、大学や図書館を選び、昔から住む人は、神社や池などを選んでいて。本研究では、属性を高校生に絞って、大切な場所の傾向を調べていく。

2.2 2021年度福井県立大野高等学校1年生アンケート分析の結果

2021年度に大野高校の当時1年生(大野市出身)を対象に、「地域について考える度合に応じて地域愛着や地域資源とのかかわり方が異なる」という仮説を立て、アンケートを行った(伊東(2021))。地域愛着の度合いと地域資源との接触量の度合いは、アンケートで「とてもそう思う」と回答した高校生の方が「どちらでもない等」と回答した高校生より高いことが分かった。そのため、地域愛着を醸成するにあたって、地域について考えるきっかけづくりが重要であると考えられた。

アンケートの問4で、大野市にあるイベント・景色・施設で最も特別であり・大切にしていきたいと感じるものを(星空/大野城/城下町キャラバン/大野城まつり/その他)から選び、また、自分が思う「大野の魅力」を自由記述で記入し、それらの地域資源との関りについて5段階(とてもそう思う/そう思う/どちらでもない/そう思わない/全くそう思わない)で評価するものがあった。質問事項は、「友人とよく遊んだ思い出のある場所である」、「学校行事や課外活動で訪れたことがある」、「家族や近所の人とよくその資源の話をする」、「観光客やマスコミ、ネット等で良い評判を聞くと嬉しく思う」、「学校等で学ぶことはその地域資源に対して考え

成分行列^a

	成分	
	1	2
市にこの資源があることを誇りに思う	.786	.217
この地域資源に関わるイベントに積極的に参加したいと思う	.771	-.269
この地域資源を守っていく活動への協力は厭わない	.751	-.381
観光客やマスコミ、ネット等でよい評判を聞くと嬉しく思う	.750	.225
この地域資源に関するイベントによく参加する	.742	-.388
家族や近所の人とよくその資源の話をする	.710	-.184
学校以外で資源について考える機会があった	.700	-.367
学校等で学ぶことはその地域資源に対して考えるいい機会となる	.667	.407
友人とよく遊んだ思い出のある場所	.549	.387
学校行事や課外活動で訪れたことがある(遠足など)	.545	.637

因子抽出法: 主成分分析

a. 2個の成分が抽出されました

図3 主成分分析の結果

るいい機会となる」、「学校以外で資源について考える機会があった」、「市にこの資源があることを誇りに思う」、「この地域資源に関するイベントによく参加する」、「地域資源に関わるイベントに積極的に参加したいと思う」、「この地域資源を守っていく活動への協力は厭わない」であった。この結果を、主成分分析した。その結果が図3である。成分1の特徴は、「市にこの資源があることを誇りに思う」、「観光客やマスコミ、ネット等での良い評判を聞くと嬉しく思う」、「家族や近所の人と良くその資源の話をする」など「外部からの社会的な評価」であり、成分2の特徴は、「友人とよく遊んだ思い出のある場所」、「学校行事や課外活動で訪れたことがある」など「個人の思い出や実体験」であった。そこで本研究ではこの結果を、高校生という様々な環境から影響を受け、周囲に敏感である年齢だからこそその結果であると捉え、高校生は自分の思い出や実体験より、周囲や社会的な評価が地域資源や地域愛着の醸成に影響を与えているのではないかという仮説を立てた。

第3章 本研究で検証する仮説・各要素の定義づけ

3.1 本研究の仮説

本研究での仮説は3つある。以下にまとめる。

仮説①

大切な場所を選ぶ理由は、思い出より社会的な評価が影響する。

仮説②

高校生の大切な場所は、通っている高校の近くに多く存在する。

仮説③

地域愛着のある高校生が定住したい街は、思い出がたくさんある街であり、地域愛着のない高校生が定住したい街は、社会や世間からの評価がいい街である。

3.2 本研究での各要素の定義

本研究では田原⁷の既往研究により、地域愛着には、3つの要素が存在するものとして扱う。3つの要素は、「選好」、「感情」、「持続願望」である。「選好」は、地域の機能性のメリットをきっかけに醸成される入り口である。「感情」は、当該地域が永久的に存在してほしい、なくなると悲しいなどの情緒的な地域愛着の段階のことである。「持続願望」は、さらに踏み込んだ感情で「この街は自分のまちだと感じる」、「この街にずっと住み続けたい」などの当該地域との持続的な関係を願望する状態のことである。田原の研究によって、選好→感情→持続願望のパターンと、選好→持続願望のパターンがあることが示唆されている。

本研究では、高校生の現段階での地域愛着(持続願望)には、「社会的な評価」と「個人的な評価」のどちらが影響するのか明らかにする。そのうえでの「社会的な評価」と「個人的な評価」という言葉の定義をしておく。ここでの「社会的な評価」とは、観光客や周囲の大人、メディアなどの高校生本人を取り巻く外部が行っている評価のことである。例えば、周囲の大人に人気な場所が高校生にとって大切な場所に感じたり、メディアが高い評価を下している街に住んでみたいと思ったりということである。「個人的な評価」とは、高校生のこれまでの実体験や思い出によって行っている評価のことである。例えば、子供の頃よく遊んでいた思い出のある公園を大切な場所に感じたり、これまでの思い出がある街に住み続けたいと思ったりということである。アンケートの質問項目を、この2種類に分類できるように設定していく。

第4章 研究方法

4.1 研究方法

表1に示すように、大野市役所を通じて、大野高校に依頼し、授業時間の一部でアンケートを実施した。調査期間は、2022(令和4)年11月16日から11月24日のいずれかの1日とし、対象は、大野高校の1,2年生とした。全体の回答率は90.4%であった。学年ごとの回答率は表2に示した。

表1 アンケート実施概要

調査対象	福井県立大野高等学校
対象学年	1.2年生(1年生:106名,2年生123名)
実施期間	2022年11月16日~2022年11月24日
総配布数	229部
サンプル数	207名(回答率90.4%)
有効回答数	設問ごとに異なる
住所	大野市内 大野市外

表2 学年ごとのアンケート回収率

学年	回答数(人)	学年の人数(人)	回収率(%)
1年	97	106	91.5
2年	110	123	89.4

4.2 アンケート概要

調査項目は大きく分けて①基本情報、②大切な場所、③大切な場所の選択理由、④定住したい街、⑤地域愛着の有無、であった。項目の設定理由は以下に述べる。

①基本情報(問1,2)

回答者の学年、クラス、居住地(大野市内、市外)を問うた。分類わけによる結果への違いを分析するための設問であった。

②大切な場所(問3,5)

高校生にとっての大野市内の大切な場所を問うた。大切な場所を大野市の地図上に可視化し、高校生にとっての大切な場所は、どのエリアに多いのか、大野高校の近くに多いのか、人の交流が盛んなところに多いのかを分析するための設問であった。自由記述式を設けることによって、アンケート作成側が考え付かなかった場所を記入してもらえることを期待した。

選択式の大切な場所の問(図4)は、「特にない」も含めた33個の中から、大切な場所を2つ選んでもらった。大野市のホームページの施設一覧⁸に掲載されている、かつ高校生が日常で利用できる施設を選抜した。さらに、大野市にある、面積が広い公園トップ5を加えた。藪谷らの研究より、公園に寄り道している生徒は、人や自然との接触機会が少ないコンビニに寄り道する生徒より、地域愛着が高いことが示されているため、公園を選択肢の中に加えた。

問3) 下のリストは、大野市にあるスポットを挙げたものです。あなたの「大切な場所」を下から2つ選び、回答欄に番号を記入してください。

- | | | |
|-------------------------------|-------------------------|------------|
| ① 道の駅「越前おおの荒島の郷」 | ⑫ 九頭竜温泉 平成の湯 | ⑳ 奥越ふれあい公園 |
| ② 麻那姫湖青少年旅行村 | ⑬ 本願清水イトヨの里 | ㉑ 亀山公園 |
| ③ 六呂師高原
トロン温浴施設うらら館 | ⑭ 学習研究施設
「越前おおの水の学校」 | ㉒ 明治公園 |
| ④ 六呂師高原 | ⑮ COCONO アートプレイス | ㉓ 弥生公園 |
| ⑤ 道の駅九頭竜 | ⑯ 大野市歴史博物館 | ㉔ ときね沢公園 |
| ⑥ 九頭竜湖 | ⑰ 武家屋敷旧田村家 | ㉕ 白伏山 |
| ⑦ 九頭竜国民休養地 | ⑱ 武家屋敷旧山内家 | ㉖ 御清水 |
| ⑧ 和泉郷土資料館 | ㉑ 大野市民族資料館 | ㉗ 越前おおの結楽座 |
| ⑨ 笛資料館 | ㉒ 越前大野城(天空の城含む) | ㉘ おおのの芝桜 |
| ⑩ 大野市化石発掘体験センター
「HOROSSA！」 | ㉓ 平成大野屋 | ㉙ JR 越美北線 |
| ⑪ あっ宝んど | ㉔ 学びの里「めいりん」 | ㉚ 特にない |

1つ目の大切な場所		2つ目の大切な場所	
-----------	--	-----------	--

図4 問3のアンケート内容

③大切な場所の選択理由(問4, 6)

高校生が、大切な場所を選ぶ理由を複数回答可の形式で図5のように問うた。高校生が大切な場所を選ぶ理由は、社会的な要因か思い出的な要因かを分析するための設問であった。選択肢は、木場らのアンケート結果と2021年大野高校のアンケート結果(大野市出身の当時高校1年生)を参考に作成した。

個人的な評価に寄与した理由:①子供の頃の思い出があるから②比較的最近の思い出があるから⑤家族との思い出があるから⑥友達・恋人との思い出があるから⑦よく利用するから⑫風景や自然が好きだから

社会的な評価に寄与した理由:③テレビや新聞でよく目にするから④テレビや新聞での評価が良いから、⑧SNSでよく目にするから⑨SNSでの評判が良いから⑩有名な観光資源だから⑪地域のシンボルだから⑬周囲の大人の評価が良いから

問4) 問3の場所を、「大切な場所」として選んだ理由を以下から選び、番号を回答欄に記入してください。

(複数回答可)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ① 子供の頃の思い出があるから | ⑧ SNS でよく目にするから |
| ② 比較的最近の思い出があるから | ⑨ SNS での評判が良いから |
| ③ テレビや新聞でよく目にするから | ⑩ 有名な観光資源だから |
| ④ テレビや新聞での評価が良いから | ⑪ 地域のシンボルだから |
| ⑤ 家族との思い出があるから | ⑫ 風景や自然が好きだから |
| ⑥ 友達・恋人との思い出があるから | ⑬ 周囲の大人の評価が良いから |
| ⑦ よく利用するから | ⑭ その他 |

1つ目の大切な場所の 選択理由 (複数回答可)		2つ目の大切な場所の 選択理由 (複数回答可)	
----------------------------	--	----------------------------	--

図5 問4のアンケート内容

④定住したい街(問7)

高校生は、「社会や世間からの評判がいい街」と「思い出がたくさんある街」のどちらに定住したいかを問うた。シンプルに高校生がどちらに定住したいかを集計するためであったが、それぞれの回答に導く地域愛着の有無や大切な場所の選択理由に要因があるのか分析するための設問でもあった。

⑤地域愛着の有無(問8)

現時点で、回答者の大野市への地域愛着があるかを問うた。昨年のアンケートのように地域愛着の「選好、感情、持続願望」に沿った設問を複数用意し、一人一人の愛着度を出す方針を取りたかったが、高校に配布できるアンケート枚数の制約などの結果、自己申告の回答方式にした。

第5章 アンケート分析結果

5.1 学年(問1)

4.1の研究方法の表で示した通りの学年別回答数が集計できた。

5.2 居住地(問2)

大野市内の生徒は194人、大野市外の生徒は13人であった。学年別では、1年生の大野市内の生徒は90人、大野市外の生徒は7人、2年生の大野市内の生徒は201人、大野市外の生徒は6人であった。

5.3 選択式高校生の大切な場所(問3)

回答人数は207で、1人2か所回答したため、回答数は414であった。最も回答数が多かった場所は、回答数66で「越前大野城」であった。次いで、回答数60で「あっ宝らんど」、回答数57で「奥越ふれあい公園」であった。33個の選択肢結果は以下の表3のようになった。

表3 選択式大切な場所の結果

名称	回答数	名称	回答数	名称	回答数
越前大野城 (天空の城含む)	66	亀山公園	6	麻那姫湖青少年旅行 村	1
あっ宝らんど	60	九頭竜湖	6	大野市化石発掘体験 センター 「HOROSSA！」	1
奥越ふれあい公園	57	明治公園	4	越前おおの結楽座	0
御清水	47	弥生公園	4	白伏山	0
JR越美北線	32	道の駅九頭竜	2	ときね沢公園	0
六呂師高原	25	九頭竜温泉 平成の湯	1	大野市民族資料館	0
道の駅「越前おおの荒 島の郷」	22	学習研究施設「越前 おおのの水の学校」	1	武家屋敷旧田村家	0
本願清水イトヨの里	21	COCONOアートプ レイス	1	笛資料館	0
学びの里「めいりん」	10	大野市歴史博物館	1	和泉郷土資料館	0
六呂師高原トロン温浴 施設うらら館	9	武家屋敷旧山内家	1	九頭竜国民休養地	0
おおのの芝桜	6	平成大野屋	1	特になし	29
				合計	414

5.4 選択式高校生の大切な場所の選択理由(問4)

問3の33の選択肢の中から、大切な場所を選んだ理由を集計した結果(図6)、最も多い理由は「子供の頃の思い出があるから」であった。次いで、「友達・恋人との思い出があるから」、「よく利用するから」、「風景や自然が好きだから」であった。個人的な評価が寄与する理由(選択肢番号①②⑤⑥⑦)

⑫)は全体の70.1%を占めていた。社会的な評価が寄与する理由(選択肢番号③④⑧⑨⑩⑪⑬)は、全体の23.5%を占めていた。図7に示したように、個人的な評価に寄与した理由の方が大切な場所を選ぶ理由になっていた。

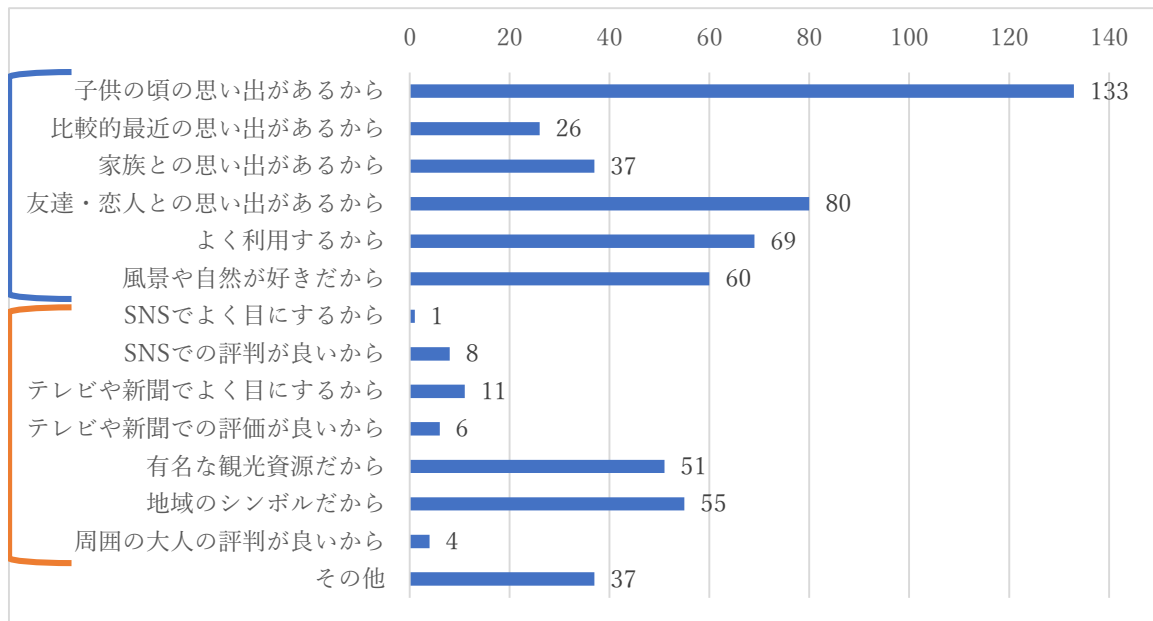


図6 選択式大切な場所の選択理由(複数回答可)

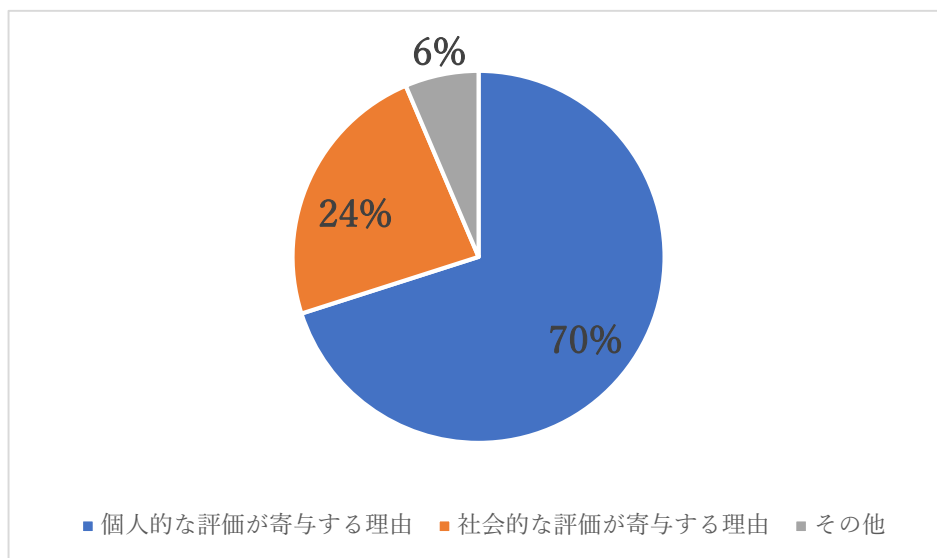


図7 選択式大切な場所の選択理由(個人的と社会的の割合)

5.5 自由記述式高校生の大切な場所(問5)

自由記述式の大切な場所の有効な回答は184であった。回答数が2個以上集まった場所は、回答してくれた場所の70.7%をカバーしていた。そのため表6は、回答数が1個だった場所について、カテゴリー化したものである。また、集計する上で、個人が特定できるものは改名し、複数回答のものは、1番はじめに書いているものを優先順位が高いとみなし、1番はじめのもののみで集計し



写真1 vio

た. 最も多くの回答数 30 を集めた高校生の大切な場所は, 大野市のショッピングセンター「vio」であった. 次いで, 「大野市図書館」, 「結とぴあ」であった. すべての結果は以下の表 4 に示す.



写真 2 大野市図書館



写真 3 結とぴあ

表 4 自由記述式の大切な場所の結果

名称	回答数	名称	回答数	名称	回答数	名称	回答数
vio	30	荒島岳	4	杉川商店	2	大野高校グラウンド	2
大野市図書館 (「図書館」を含む)	9	陽明中学校	3	六呂師 (「六呂師の大野の 景色が一望できる場 所」を含む)	2	上庄中学校	2
結とぴあ (「結とぴあエキサイト 広場」を含む)	8	マクドナルド	3	九頭電スキー場	2	上庄	2
大野高校	6	スターランド阪谷	3	亀山	2	中野清水	2
家 (「杉下家」「ベット」 含む)	6	七間通り (「七間道路」「七間朝 市」を含む)	3	勝原園地	2	あかね公園	2
開成中学校	5	エキサイト広場	3	勝原	2	8番らーめん	2
B&G	5	スーパー (「スーパー、ドラック ストア、コンビニ、パ ン屋」「新鮮館」の回 答を含む)	3	学校 (「母校」を含む)	2	大野市文化会館 (「文化会館」を含める)	2
和泉スキー場 (「和泉スキー場、九頭 電スキー場、クロスカ ントリースキー場、上 半原、下半原」を含 む)	4	朝倉義景御所 (「朝倉義景史跡」 「よしかげ公園」を含 む)	3	大野食堂	2	篠座神社	2

注: 「上庄」の回答は, 小学校と中学校どちらを指しているか不明であるので大切な場所としてカウントしないものとする

表 4 の中で特徴的だったこととして, 学校を大切な場所に挙げてくれた回答が多かったことである. 学校や母校といった抽象的な表現と大野高校を除くと, 回答数が多い順に「開成中学校」, 「陽明中学校」, 「上庄中学校」, 「尚徳中学校(表 6: 回答数 1)」であった. 令和 3 年 5 月 1 日現在(調査対象の高校 1 年生が当時中学 3 年生)の生徒数データは, 表 5 になっている. 「陽明中学校」が最も生徒数が多く, 次いで, 「開成中学校」, 「尚徳中学校」, 「上庄中学校」, であ

った. サンプル数は少ないものの, 1 番生徒数が多

表 5 大野市中学校生徒数

データ出典: 大野市ホームページ

中学校名	生徒数 (人)	学級数 (学級)	割合 (%)
開成中学校	287	12	36.7
陽明中学校	346	14	44.2
上庄中学校	69	4	8.8
尚徳中学校	73	3	9.3
和泉中学校	7	3	0.9
合計	782	36	100.0

い「陽明中学校」の回答数がほかの中学校と比較して多く、また「開成中学校」、「上庄中学校」、「尚徳中学校」の回答もみられることから、自由記述式の大切な場所の結果(表4)に挙げられている中学校の回答数の差に大きな矛盾はないと考察できる。したがって、高校生の段階では、出身中学校周辺にも大切な場所があることが示唆された。

回答数が1個だった大切な場所をカテゴリー化すると、「店」、「公園」、「道路」、「自然」、「学校」、「地区」になった。「店」は、飲食店の固有名詞や薬局、電化製品店などを挙げていた。「公園」は、問3の選択肢の中になかった公園を挙げていた。「道路」は、名前のついている通りや、普段通っている名前のない通り道などを挙げていた。「自然」は、川や夜空などを挙げていた。「学校」は卒業したと考えられる小学校、中学校を挙げていた。「地区」は、場所ではなく全体といったような回答だった。

表6 回答数1の大切な場所のカテゴリー化

カテゴリー名	回答数	割合 (%)	具体名
店	12	6.5	陽明堂、野鳥レストラン、みつわ、南部の駄菓子屋、すき家、コメダ、菓のアオキ、カフェ、大野高校の近くにあるパン屋さん、伊藤文具店、100満ポルト、下庄小学校付近の駄菓子屋
公園	10	5.4	龍谷公園、城北公園、山王公園、東中公園、三角公園、自分の地区の近くの公園、若杉公園、春日公園、駅東公園、荒井公園
道路	9	4.9	六間通り、寺町通り、中部循環自動車道、田んぼに囲まれている道、こぶし通り、国道沿いから荒島の里につれての道、国道158号線、亀山の裏の階段、家から小学校までの通学路
自然	6	3.3	真名川、清滝川、刈込池、大野高校から見える山、大野から見える夜空、360度山が見えるところ
学校	4	2.1	南小学校、富田小、尚徳中、有終南小学校、有終東小学校
地区	2	1.1	全域、阪谷地区
その他のスポット	11	6	湧水が飲める場所、真名川グラウンド、新田塚スイミングスクール大野、市役所、下庄公民館、勝原駅、勝山恐竜博物館、開成集会場、奥越青少年自然センター、上庄の大きな橋、あかね川の橋

5.6 自由記述式高校生の大切な場所の選択理由(問6)

自由記述式の大切な場所を回答した理由を集計した結果(図8)、最も多い理由は「よく利用するから」であった。次いで、「子供の頃の思い出があるから」、「友達・恋人との思い出があるから」、「風景や自然が好きだから」であった。個人的な評価が寄与する理由(選択肢番号①②⑤⑥⑦⑫)は全体の89.3%を占めていた。社会的な評価が寄与する理由(選択肢番号③④⑧⑨⑩⑬)は、全体の5.6%を占めていた。図9に示した通り、個人的な評価に寄与した理由の方が大切な場所を選ぶ理由になっていた。

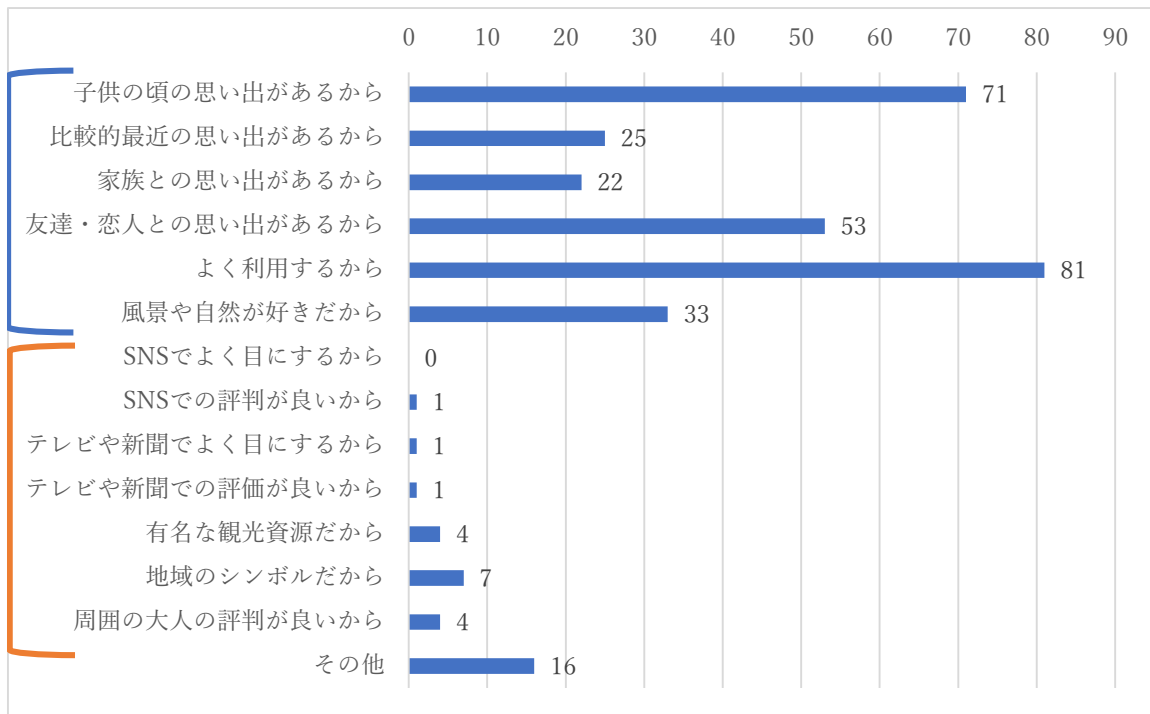


図8 自由記述式大切な場所の選択理由（複数回答可）

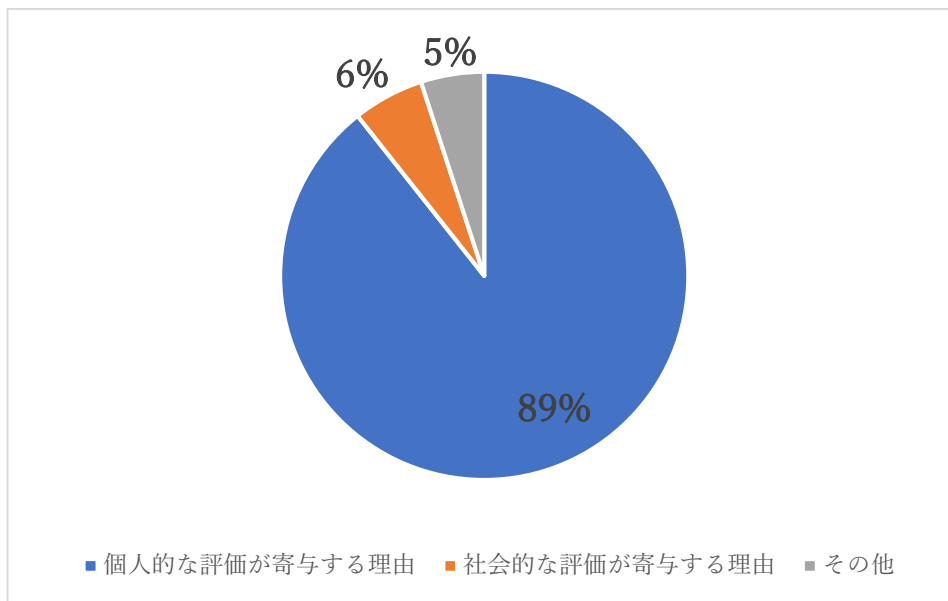


図9 自由記述式大切な場所の選択理由（個人的と社会的の割合）

5.7 大切な場所の地図上への可視化

問5の回答結果を用いて、大野市の地図に書き込んだ。「六呂師」以外の全体地図は、図10のようになった。回答数が多いものは円を大きく表現した。地図上に可視化してわかったことは、大野高校周辺と市街地に、高校生にとって大切な場所が集中しているということであった。

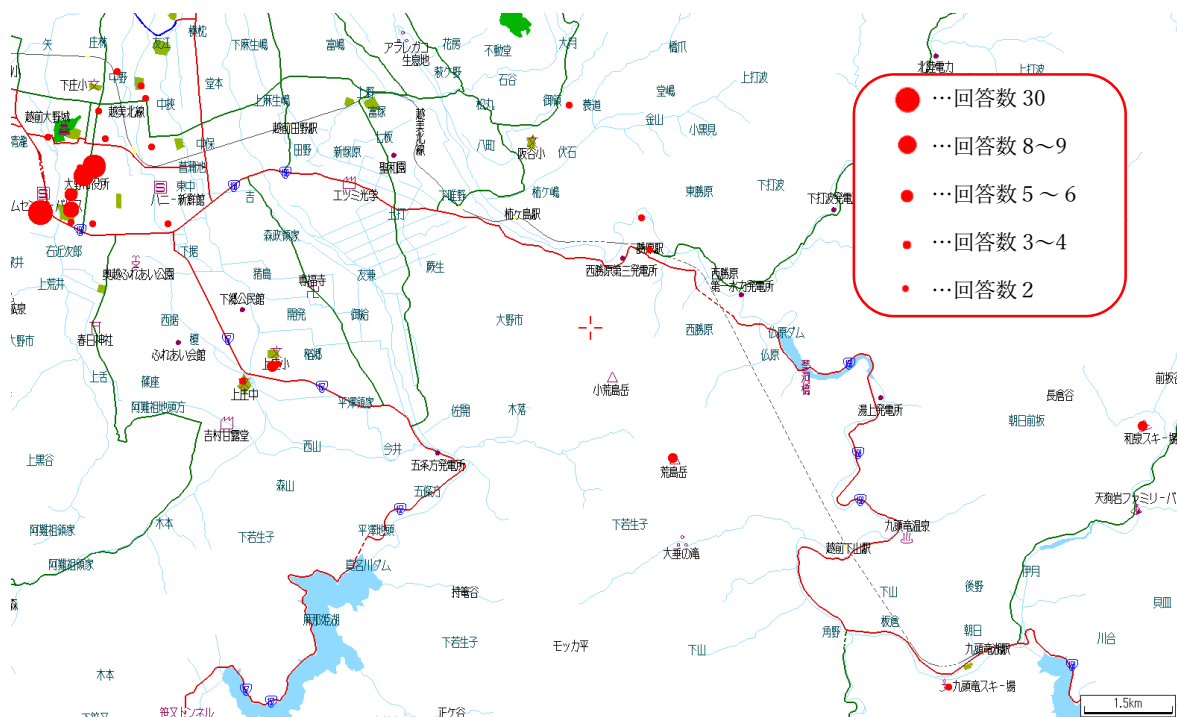


図10 高校生の大切な場所の可視化（六呂師以外の全体地図）

大野高校付近と市街地の拡大した地図は、図11である。図11の中でも特に、大野高校を中心として約880m圏内（大野高校から大野市図書館まで）に大切な場所が集中していた。例えば、「大野市図書館」や「大野高校のグラウンド」、「vio」、「マクドナルド」などの観光地や世間的に有名なスポットではなく、日常的によく利用する場所が多い印象である。この点について、大切な場所を選択した理由を分析し明らかにした。大野高校を中心として約880m圏内（大野高校から大野市図書館まで）にある「vio」、「大野市図書館」、「結とぴあ」、「大野高校」、「開成中学校」、「マクドナルド」、「朝倉義景御所」、「大野高校グラウンド」、「あかね公園」、「篠座神社」を大切な場所を選んでくれた合計70人の生徒の選択理由の結果は表7のようになった。48.9%の理由が「よく利用するから」であることが分かった。また、有効な回答183のうちの38.0%が半径約880m（大野高校から大野市図書館までの距離）の範囲に存在していた。このことから、高校生にとって、日常的によく利用する場所は大切な場所になる可能性が高く、通っている学校の近くに多く存在することが考えられた。

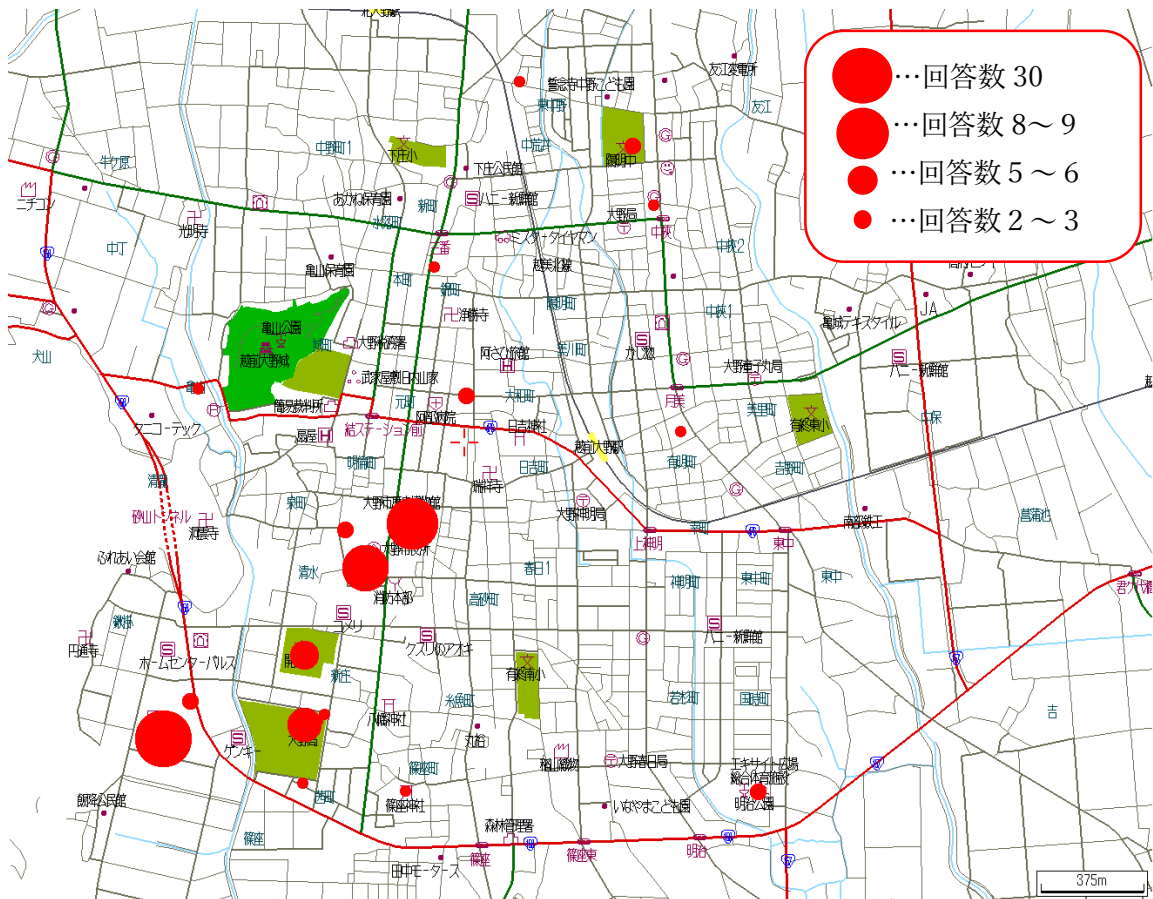


図 11 高校生の大切な場所の可視化（大野高校周辺と市街地）

表 7 大野高校周辺を大切な場所を選んでくれた生徒の選択理由

大切な場所の選択理由 (vio,大野市図書館,結とびあ,大野高校,開成中学校,マクドナルド,朝倉義景御所,大野高校グラウンド,あかね公園,篠座神社)	回答数 (複数回答可,サンプル数 70 人)	割合 (%)
子供の頃の思い出があるから	15	16.3
比較的最近の思い出があるから	10	10.9
家族との思い出があるから	3	3.3
友達・恋人との思い出があるから	14	15.2
よく利用するから	45	48.9
風景や自然が好きだから	3	3.3
SNS でよく目にするから	0	0.0
SNS での評判が良いから	0	0.0
テレビや新聞でよく目にするから	0	0.0
テレビや新聞での評価が良いから	0	0.0
有名な観光資源だから	0	0.0
地域のシンボルだから	0	0.0
周囲の大人の評判が良いから	2	2.2
合計	92	100.0

次に、上庄小・中学校の付近を拡大すると、ここでも、学校の付近にレジャースポットや観光地以外
 の大切な場所があることが分かった。B&Gという海鮮センターと食料品を売っている杉川商店が上庄
 小・中学校付近で大切な場所に挙げられていた。図 12 に表されている大切な場所においても、選択
 理由を集計した。「上庄中学校」、「杉川商店」、「B&G」を大切な場所に選んでくれた合計9人の生徒
 の選択理由の結果は表 8 のようになった。「子供の頃の思い出があるから」、「友達・恋人との思い出
 があるから」が全体の 80%を占める理由であった。そのため、大野高校付近のよく利用する場所が大
 切な場所になるという学校周辺のケースとして、特徴づけることはできなかった。



図 12 高校生の大切な場所の可視化（上庄中学校周辺）

表 8 上庄中学校周辺を大切な場所を選んでくれた生徒の選択理由

大切な場所の選択理由 (上庄中学校,杉川商店,B&G)	回答数 (複数回答可,サンプル数9人)	割合 (%)
子供の頃の思い出があるから	6	40.0
比較的最近の思い出があるから	0	0.0
家族との思い出があるから	1	6.7
友達・恋人との思い出があるから	6	40.0
よく利用するから	2	13.3
風景や自然が好きだから	0	0.0
SNS でよく目にするから	0	0.0
SNS での評判が良いから	0	0.0
テレビや新聞でよく目にするから	0	0.0
テレビや新聞での評価が良いから	0	0.0
有名な観光資源だから	0	0.0
地域のシンボルだから	0	0.0
周囲の大人の評判が良いから	0	0.0
合計	15	100.0

大野高校周辺の大切な場所の選択理由と、上庄小・中学校周辺の大切な場所の選択理由に違いが生じていることを詳しく分析した。どちらも、学校の近くに、観光地や名所ではない場所が大切な場所選ばれていた。しかし、大野高校周辺では、「よく利用する」といった現在進行形の理由が多く、上庄小・中学校周辺では新たに塗り替えられる可能性の低い「子供の頃の思い出があるから」、「友達・恋人との思い出があるから」の過去の理由が多かった。このことから、「形成途中の大切な場所」、「形成済みの大切な場所」に分類した。方法としては、「よく利用するから」、「比較的最近の思い出があるから」の中から、少なくとも1つ以上選択理由として挙げている場所を「形成途中の大切な場所」とし、「子供の頃の思い出があるから」、「家族との思い出があるから」、「友達・恋人との思い出があるから」の中から少なくとも1つ以上選択理由として挙げている場所を「形成済みの大切な場所」とした。

その結果が表 9, 表 10 である。黄色の部分、大野高校周辺と市街地にあたる場所で、青色の部分は、上庄小・中学校周辺にあたる場所である。ここで1つ注意点がある。開成中学校は、位置的に大野高校周辺にあるため黄色になっているが、分類としては出身校になる。この結果から分かることは、高校生が現在よく利用している「vio」、「大野市図書館」、「大野高校」、「大野高校グラウンド」は、現段階で大切な場所だが、形成途中であるため、変化する可能性があるということである。そして、青色の部分と黄色の開成中学校のような出身校や出身校の周辺にあり、かつて利用していたような場所は、形成済みであるため、今後大切な場所が増えることがあったとしても、この場所が大切な場所でなくなる可能性は低いと考えた。

表 9 形成途中の大切な場所

形成途中の大切な場所	
vio	21
大野市図書館	9
結とびあ	5
大野高校	3
スーパー	3
大野高校グラウンド	2
大野食堂	1
陽明中学校	1
荒島岳	1
マクドナルド	1
8 番らーめん	1
和泉スキー場	1

表 10 形成済みの大切な場所

形成済みの大切な場所	
vio	5
開成中学校	5
B&G	4
上庄中学校	2
あかね公園	2
マクドナルド	2
九頭竜スキー場	1
杉川商店	1
亀山	1
中野清水	1
和泉スキー場	1
大野食堂	1
よしかげ公園	1
七間道路	1
篠座神社	1
8 番らーめん	1
陽明中学校	1
大野高校	1
大野市文化会館	1

注：黄色…大野高校周辺と市街地にある場所 青色…上庄小・中学校周辺にある場所

そのほかに、図 13 のようにばらばらに大切な場所があった。市街地から離れた大切な場所の特徴は、レジャースポットであったり、市の中で有名な自然スポットであったりする。例えば、荒島岳や和泉スキー場、六呂師である。この点について、大切な場所を選択した理由を分析した。「和泉スキー場」、「荒島岳」、「スターランド阪谷」、「六呂師」、「九頭竜スキー場」を大切な場所を選んでくれた合計 19 人の生徒の選択理由の結果は表 11 のようになった。先ほどまでと違った特徴としては、社会的な評価に分類している理由の選択割合が増えた事である。また、「風景や自然が好きだから」の割合が 26.8%と最も高くなった。

このような特徴の場所は一定数の高校生にとって大切な場所になり、日常生活での利用回数などに作用されない自然への好感や社会的な評価によって大切な場所として選択されている可能性が示唆された。

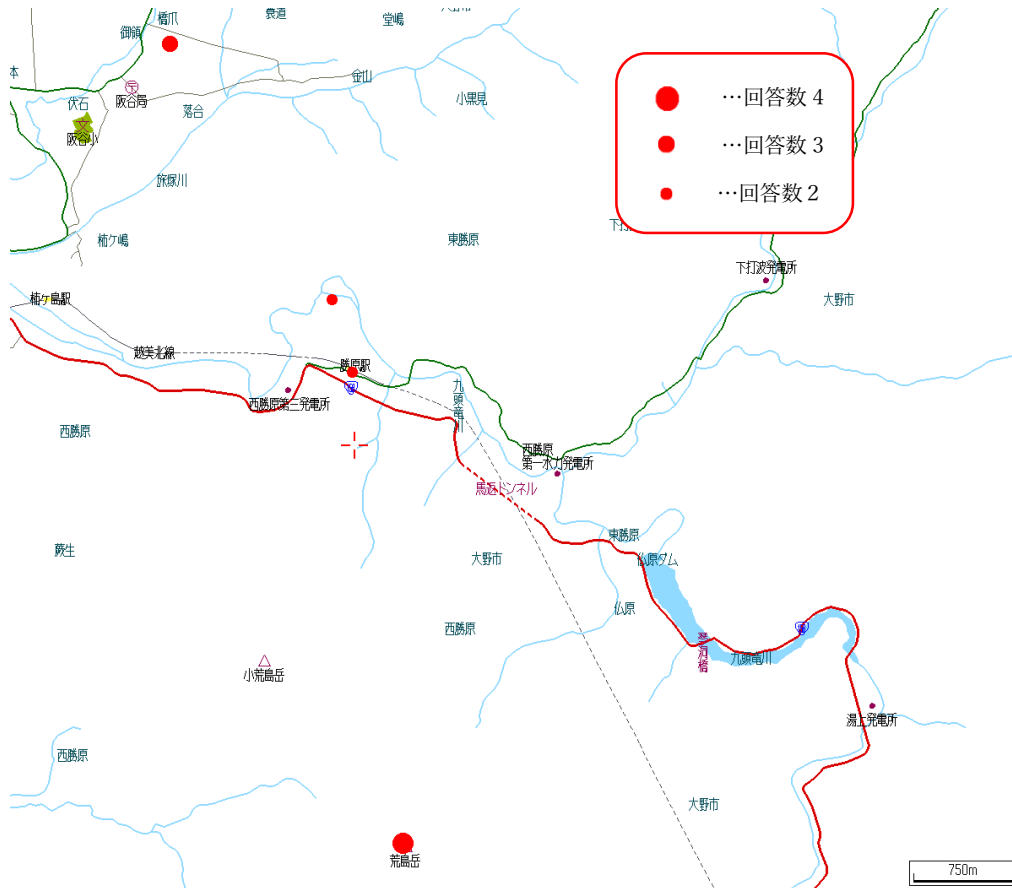


図 13 ばらばらの大切な場所の可視化

表 11 ばらばらの大切な場所を大切な場所を選んでくれた生徒の選択理由

大切な場所の選択理由 (和泉スキー場,荒島岳,スターランド阪谷,六 呂師,九頭竜スキー場)	回答数 (複数回答可,サンプル数 19人)	割合 (%)
子供の頃の思い出があるから	7	17.1
比較的最近の思い出があるから	3	7.3
家族との思い出があるから	4	9.8
友達・恋人との思い出があるから	7	17.1
よく利用するから	4	9.8
風景や自然が好きだから	11	26.8
SNS でよく目にするから	0	0.0
SNS での評判が良いから	0	0.0
テレビや新聞でよく目にするから	1	2.4
テレビや新聞での評価が良いから	0	0.0
有名な観光資源だから	2	4.9
地域のシンボルだから	2	4.9
周囲の大人の評判が良いから	0	0.0
合計	41	100.0

地図上に可視化した大切な場所の結論は、高校生にとっての大切な場所の特徴は3パターンが明らかになった。1つ目は、現在の学校や生活圏内を中心として、日常的によく利用する場所が大切な場所となり、学校の周辺にまとまった形で分布しているパターンである。この場合は、大切な場所を形成中であるため、今後大切な場所でなくなる可能性もある。2つ目は、出身校や出身校周辺でかつて利用していた施設が大切な場所となり、学校の周辺にまとまった形で分布しているパターンである。この場合は、過去の思い出が理由で形成済みの大切な場所になっているため、今後変化する可能性は低いと考えられる。3つ目は、生活圏内ではなく、さらに日常生活での利用回数より社会的な評価や自然への好感が影響を与える、レジャースポットや有名スポットが大切な場所となり、地図上では、ばらばらに分布しているパターンである。

5.8 高校生の定住したい街(問7)

有効な回答数は201で、図14より「社会や世間からの評判がいい街」に定住したいと答えた高校生は、55.2%で「思い出がたくさんある街」に定住したいと答えた高校生は44.8%であった。

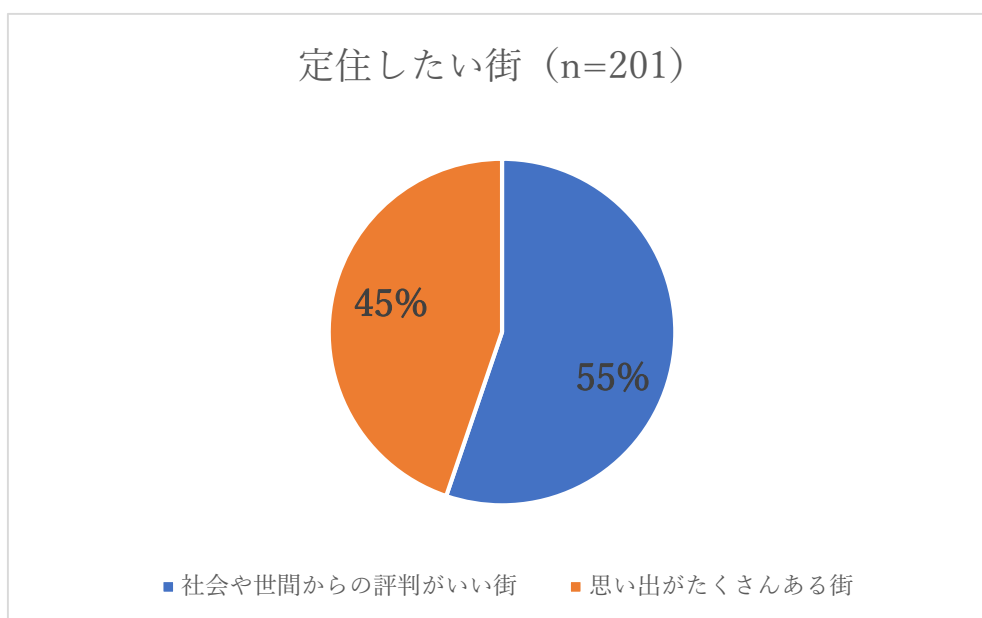


図14 高校生の定住したい街の割合

「t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定」を行った。

帰無仮説 H_0 : 「2つの回答に有意な差はない」

対立仮説 H_1 : 「2つの回答に有意な差がある」

その結果は図 15 である。 $P < 0.05$ であるため帰無仮説が棄却された。 2つの回答に有意な差があると言えた。

t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定

	思い出がたくさんある街	社会や世間から評判のいい街
平均	0.434782609	0.536231884
分散	0.246939637	0.24989447
観測数	207	207
プールされた分散	0.248417054	
仮説平均との差異	0	
自由度	412	
t	-2.07075358	
P(T<=t) 片側	0.019502036	
t 境界値 片側	1.648560477	
P(T<=t) 両側	0.039004072	
t 境界値 両側	1.965738589	

図 15 t 検定 (高校生の定住したい街の回答)

5.9 高校生の大野市に対する地域愛着の有無(問 8)

有効な回答数は 203 で、図 16 に示す通り、大野市に対して「地域愛着がある」と回答した高校生が 85.2%、「地域愛着がない」と答えた高校生が 14.8%であった。大野市外の生徒が大野市への地域愛着がないと回答している可能性を考慮し、居住地別に集計した。その結果、大野市に対して「地域愛着がある」と回答した、大野市外の高校生は 7 で、「地域愛着がない」と回答した、大野市外の高校生は 6 であった。

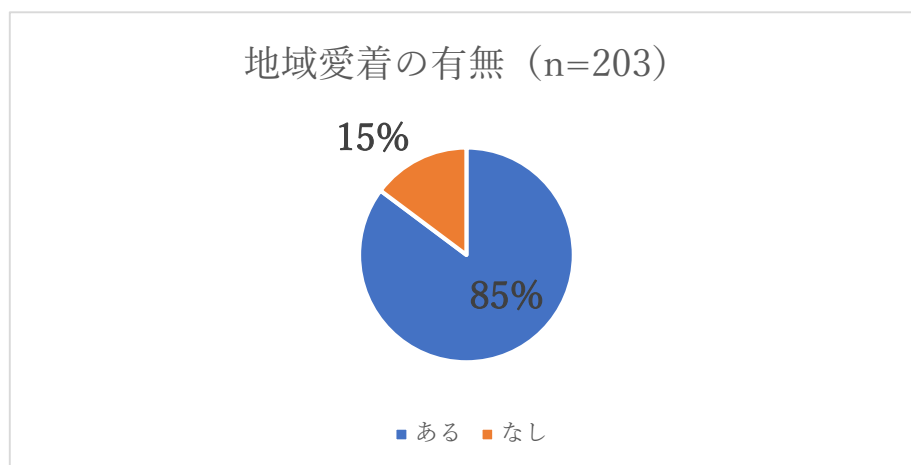


図 16 地域愛着の有無の割合

「t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定」を行った。

帰無仮説 H_0 : 「2つの回答に有意な差はない」

対立仮説 H_1 : 「2つの回答に有意な差がある」

その結果は図 17 である。 $P < 0.05$ であるため帰無仮説が棄却された。 2つの回答に有意な差があると言えた。

t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定

	地域愛着ある	地域愛着ない
平均	0.835748792	0.144927536
分散	0.137939121	0.124525116
観測数	207	207
プールされた分散	0.131232119	
仮説平均との差異	0	
自由度	412	
t	19.40062838	
P(T<=t) 片側	2.47404E-60	
t 境界値 片側	1.648560477	
P(T<=t) 両側	4.94808E-60	
t 境界値 両側	1.965738589	

図 17 t 検定 (地域愛着の有無)

5.10 定住したい街と地域愛着の相関関係と共分散構造分析

図 18 のように、「地域愛着がある」と回答した高校生のうち、「社会や世間からの評判がいい街」に定住したいと回答した高校生は 49.4%、「思い出がたくさんある街」に定住したいと回答した高校生は 50.6%であった。

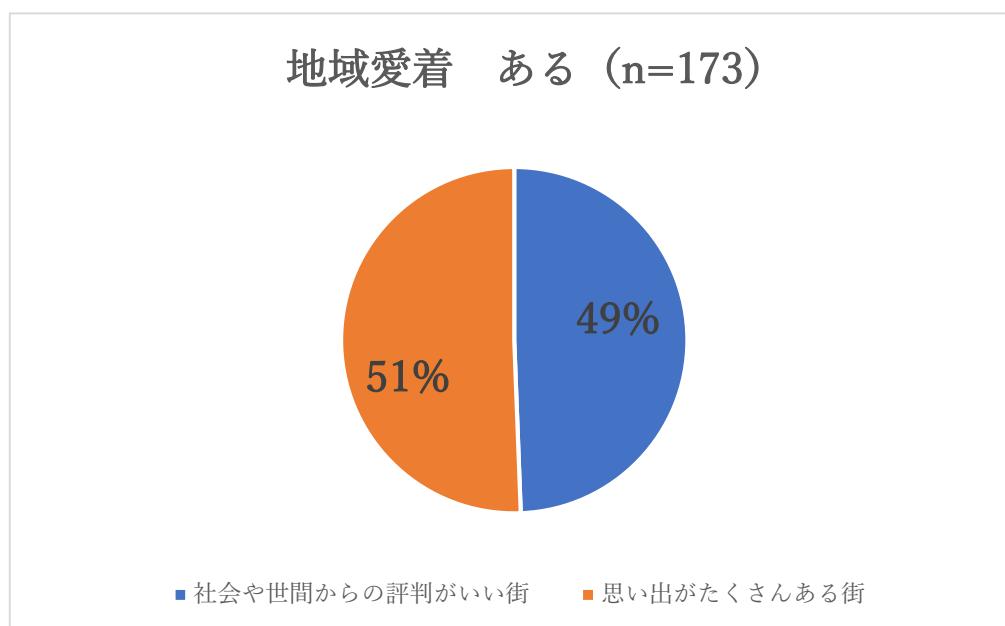


図 18 地域愛着のある高校生の定住したい街の割合

「t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定」を行った.

帰無仮説 H_0 : 「2 つの回答に有意な差はない」

対立仮説 H_1 : 「2 つの回答に有意な差がある」

t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による
検定

	思い出がたくさんある街	社会や世間から評判のいい街
平均	0.439306358	0.531791908
分散	0.247748353	0.250436887
観測数	173	173
プールされた分散	0.24909262	
仮説平均との差異	0	
自由度	344	
t	-1.723461169	
P(T<=t) 片側	0.04285185	
t 境界値 片側	1.649295214	
P(T<=t) 両側	0.0857037	
t 境界値 両側	1.966884036	

図 19 t 検定 (地域愛着ある高校生と定住したい街)

その結果は図 20 である. $P \geq 0.05$ であるため帰無仮説が棄却されない. 2 つの回答に有意な差があるとは言えなかった. よって, 地域愛着がある生徒の「社会や世間からの評判がいい街」と「思い出がたくさんある街」の選択に差があると言い切れない.

図 20 のように, 「地域愛着がない」と回答した高校生のうち, 「社会や世間からの評判がいい街」に定住したいと回答した高校生は 89.7%, 「思い出がたくさんある街」に定住したいと回答した高校生は 10.3%であった.

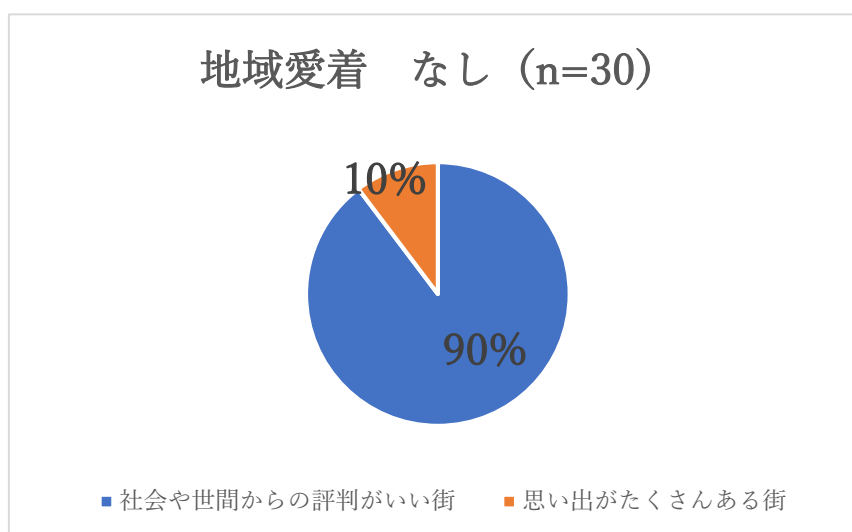


図 20 地域愛着のない高校生の定住したい街の割合

「t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定」を行った。

帰無仮説 H_0 : 「2つの回答に有意な差はない」

対立仮説 H_1 : 「2つの回答に有意な差がある」

t-検定: 等分散を仮定した2標本による検定

	思い出がたくさんある街	社会や世間から評判のいい街
平均	0.333333333	0.633333333
分散	0.229885057	0.240229885
観測数	30	30
プールされた分散	0.235057471	
仮説平均との差異	0	
自由度	58	
t	-2.39651336	
P(T<=t) 片側	0.009898162	
t 境界値 片側	1.671552762	
P(T<=t) 両側	0.019796324	
t 境界値 両側	2.001717484	

図 21 t 検定 (地域愛着ない高校生と定住したい街)

その結果は図 21 である。 $P < 0.05$ であるため帰無仮説が棄却された。 2 つの回答に有意な差があると言えた。 よって、地域愛着がない生徒の「社会や世間からの評判がいい街」と「思い出がたくさんある街」の選択に差があると言えた。

したがって、「地域愛着がない生徒」と「社会や世間からの評判がいい街」に定住したいという相関関係は示された。

次に、高校生の地域愛着と定住したい街の標準解で行った共分散構造分析の結果が図 22 である。 このモデルは、0 に近い数値程、モデルの適合度が悪くないと評価される RMSEA が 1.210 であり、また、1 に近いほどモデルの適合度が悪くないと評価される CFI が 0.026 であるから、適合度が悪い。 よって、このモデルの適合度は悪いが、出力できた値について示す。「思い出がたくさんある街に定住したい」への標準化直接効果は、「地域愛着あり」から 0.367 で、

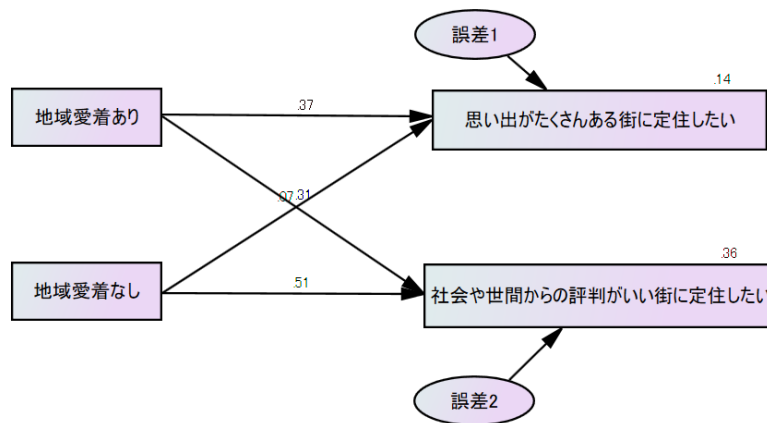


図 22 地域愛着の有無と定住した街の共分散構造分析

「地域愛着なし」から 0.069 であった。「社会や世間からの評判がいい街に定住したい」への標準化直接効果は、「地域愛着あり」から 0.310 で、「地域愛着なし」から 0.514 であった。そのため、「思い出がたくさんある街に定住したい」と考える直接効果は、「地域愛着あり」が、1 番強い因果構造であることが分かった。そして、1 番弱い因果関係は、「思い出がたくさんある街に定住したい」への「地域愛着なし」の直接効果であった。地域愛着のない高校生が社会や世間からの評判のいい街に定住したという因果関係は、標準化係数 0.514 であった。

以上のことから、地域愛着のある高校生に関しては、「思い出がたくさんある街」と「社会や世間からの評判がいい街」のどちらに定住したいかという相関関係は見られなかった。一方で、地域愛着のない生徒に関しては、「地域愛着なし」と「社会や世間からの評判のいい街」の相関関係が見られ、モデルの改善の余地はあるが、標準化係数は 0.514 となった。

5.11 地域愛着に与える要因分析

高校生が大切な場所を選ぶ理由は、5.4 と 5.6 より個人的な評価が寄与する理由が多くを占めていたことが分かった。一方で、5.10 より地域愛着がある生徒と「思い出がたくさんある街」、「社会や世間からの評判がいい街」の相関関係は示されず、地域愛着がある生徒が「思い出がたくさんある街」を選ぶことと、「社会や世間からの評判がいい街」を選ぶことに有意差があると言いきれなかった。そこで、「個人的な評価→地域愛着あり→思い出がたくさんある街」と「社会的な評価→地域愛着あり→社会や世間からの評判がいい街」の詳しい構造を以下に示していく。このモデルが考える上で、5.4 と 5.6 からわかるように選択式の大切な場所と自由記述式の大切な場所へ選択傾向の違いがある。そのため、モデルを「選択式」と「自由記述式」で分けて考えた。さらに、1 つ目の大切な場所と 2 つ目の大切な場所を選択する際の傾向を考慮して、整理番号が奇数の生徒は 1 つ目の大切な場所、偶数の生徒は 2 つ目の大切な場所の回答を利用するランダムなデータ (n=207) で分析を行った。

5.11.1 「個人的な評価→地域愛着あり→思い出がたくさんある街」のモデル

図 23 は選択式大切な場所の「個人的な評価→地域愛着あり→思い出がたくさんある街」のモデルである。有意確率が 0.063, RMSEA が 0.050, CFI が 0.681 であるためモデルの適合は悪くなかったと言えた。このモデルから分かったことは、個人的な評価の観点から地域愛着を醸成するには、子供の頃の思い出のような昔の思い出と、最近の思い出それぞれあるということだ。そして、高校生の地域愛着を醸成する比重としては、最近の思い出の方が大きいことが分かった。したがって、高校生の昔の思い出を定期的に意識させたり、大事にしたりしつつ、新しい思い出を作ることにより力を入れることが地域愛着を醸成し、思い出がたくさんある街に定住する流れとして大切だと分かった。

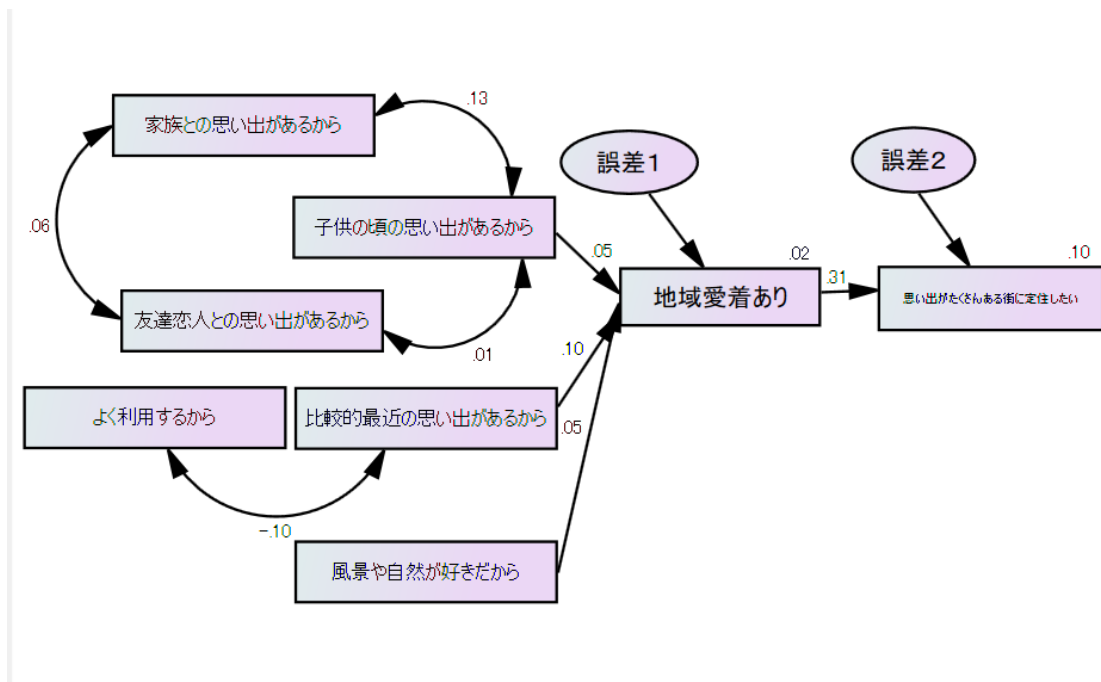


図 23 選択式大切な場所「個人的な評価→地域愛着あり→思い出がたくさんある街」モデルの結果

図 24 は自由記述式大切な場所の「個人的な評価→地域愛着あり→思い出がたくさんある街」のモデルである。有意確率が 0.214, RMSEA が 0.032, CFI が 0.964 であるためモデルの適合は悪くなかったと言えた。このモデルから分かったことは、個人的な評価の観点から地域愛着を醸成するには、子供の頃の思い出のような昔の思い出が作用していることだ。また、家族や友達、恋人との思い出も相関関係があることが分かった。

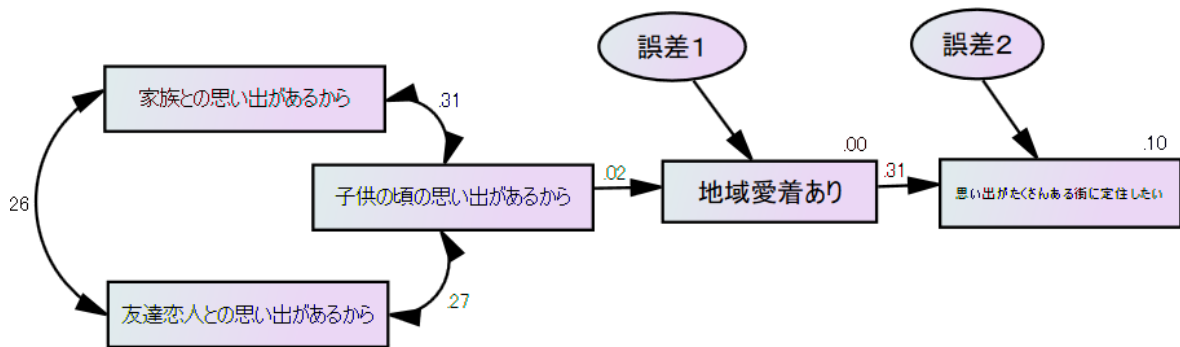


図 24 自由記述式大切な場所「個人的な評価→地域愛着あり→思い出がたくさんある街」モデルの結果

5.11.2 「社会的な評価→地域愛着あり→社会や世間からの評判がいい街」のモデル

図 25 は選択式大切な場所の「社会的な評価→地域愛着あり→社会や世間からの評判がいい街」のモデルである。有意確率が 0.323, RMSEA が 0.028, CFI が 0.945 であるためモデルの適合は悪くなかったと言えた。このモデルから分かったことは、地域のシンボルと有名な観光地と周囲の大人の評判の相関関係が負に働くこともあるということである。また、地域のシンボルであることが地域愛着を醸成しているということが分かった。

自由記述式大切な場所の「社会的な評価→地域愛着あり→社会や世間からの評判がいい街」のモデルで、適合は悪くないと言えるものはできなかった。

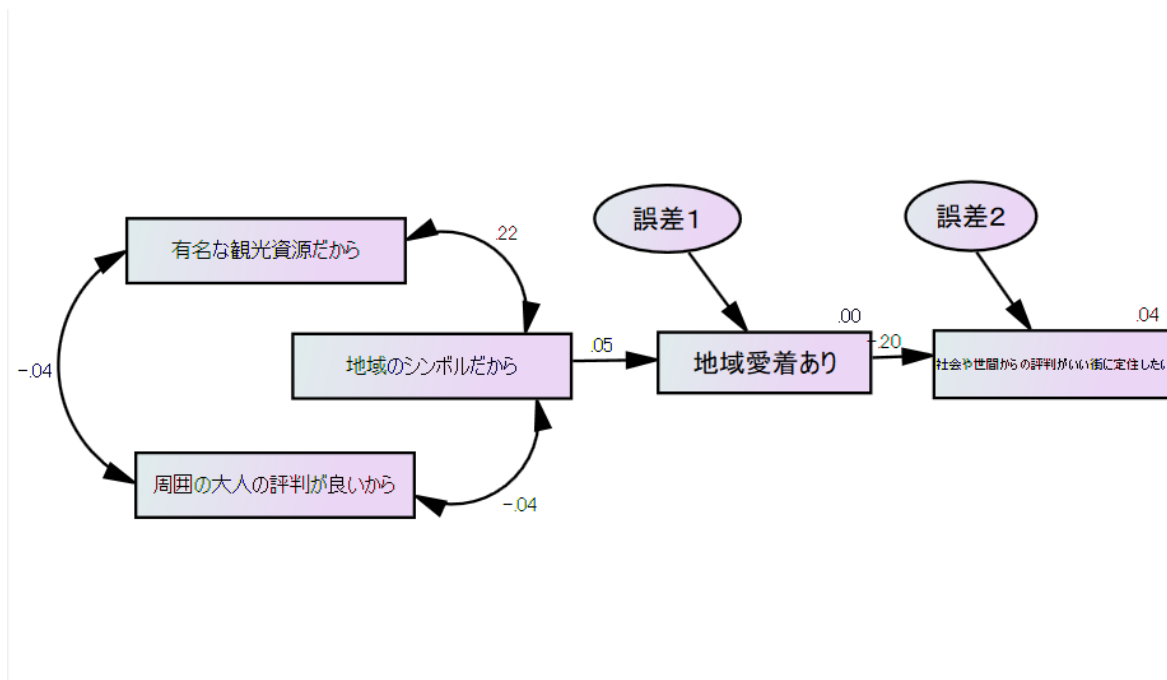


図 25 選択式大切な場所「社会的な評価→地域愛着あり→社会や世間からの評判がいい街」モデルの結果

第6章 おわりに

6.1 本研究のまとめ

本研究では、福井県立大野高等学校 1, 2 年生の大野市の大切な場所を明確にし、高校生ならではの結果を期待し研究した。具体的な方法としては、大切な場所を聞くとともに、高校生が大切な場所を選択する際の理由をアンケートした。また、高校生が定住したいと思う街や地域愛着の意識に対して、「社会的な評価」と「個人的な評価」のどちらが影響しているのかを研究した。3.1 において立てた仮説の結論は以下の通りである。

仮説①

大切な場所を選ぶ理由は、思い出より社会的な評価が影響する。

→5.4 と 5.5 の結果より、選択式と自由記述式どちらの設問においても「思い出」に寄与する理由が多かった。選択式の大切な場所の理由では、「子供の頃の思い出があるから」、自由記述式では、「よく利用するから」が最も多い理由であった。

仮説②

高校生の大切な場所は、通っている高校の近くに多く存在する。

→5.7 の結果より、高校生にとっての大切な場所の特徴は 3 パターンが明らかになった。1 つ目は、現在の学校や生活圏内を中心として、日常的によく利用する場所が大切な場所となるパターンである。この場合は、大切な場所を形成中であるため、今後大切な場所でなくなる可能性もある。2 つ目は、出身校や出身校周辺でかつて利用していた施設が大切な場所となるパターンである。この場合は、過去の思い出が理由で形成済みの大切な場所になっているため、今後変化する可能性は低いと考えられる。この 2 つは、学校の周辺にまとまって分布している。3 つ目は、生活圏内ではなく、さらに日常生活での利用回数より社会的な評価や自然への好感が影響を与える、レジャースポットや有名スポットが大切な場所となるパターンである。地図上では、ばらばらに分布している。

仮説③

地域愛着のある高校生が定住したい街は、思い出がたくさんある街であり、地域愛着のない高校生が定住したい街は、社会的な評価が良い街である。

→5.10 の結果より、地域愛着のある高校生が定住したいと考える街は、「思い出がたくさんある街」と「社会や世間からの評判がいい街」のどちらとも言い切れない結果となった。一方で、地域愛着のない高校生は、「社会や世間からの評判がいい街」に定住したいと考える相関関係が示唆された。

その他に分かったこととしては、高校生にとって大切な場所は選択式だと「越前大野城」、自由記述式だと「vio」であったことだ。また、21 の回答数差ではあるが、定住したい街は「思い出がたくさんある街」より「社会や世間からの評判のいい街」を選んだ高校生が多かったことだ。「個人的な評価→地域愛着あり→思い出がたくさんある街」のモデルから、地域愛着を醸成するには、子供の頃の思い出のような昔の思い出と、最近の思い出それぞれ因果関係があり、その比重としては、最近の思い出の方が大きいことが分かった。

以上のようなことから、すでに大切になっている場所は市民の皆で共有し、今後も維持していき、大切になりかけている場所は、高校生が大野市を旅立つまでに、最近の思い出を多く作り、変わることはない大切な場所にする必要があると考えた。このようにして、「過去の思い出」と「最近の思い出」に寄与する大切な場所を作り、地域愛着を醸成し、U ターンのきっかけにする。また、高校生が定住したいと考える街と、大野市への地域愛着のギャップは、大野市を旅立つまでに、人生設計をできる機会や大人と話す機会を設けることで、なくしていけると考えた。

6.2 今後の課題

本研究を通して課題だと感じた点をいくつか述べる。

住所に偏りが生じていたため、市内在住の高校生と市外在住の高校生の捉え方の違いを示すことができなかった。また、地域愛着の有無は自己申告にしていたため、愛着度合に個人差が生じていたと感じた。

大切な場所の意味を「いつも利用しているからなくなったら困る」といったような必需としての大切という捉え方と、自分の好きな場所としての大切という捉え方など、人によって「大切な場所」という言葉の捉え方が違っていった可能性がある。今後は、捉え方の違いが生まれない表現を利用する、もしくは、どのような意味で捉えたのか読み取れる質問事項にするなどの工夫が必要だと感じた。

自由記述式の大切な場所の回答結果から、出身校は質問事項として聞いておくべきだと分かった。理由としては、大切な場所として挙げられた学校の相対比較ができることや、出身校を大切な場所として挙げているのか、数回利用しただけだが、大きな思い出があり、大切な場所として回答しているのかが判断できなかったからだ。

地図上に可視化した結果から、大野市をさらに細かく分けし、大切な場所を問う必要があると感じた。そうすることによって、「市街地と大野高校周辺」、「市街地から離れた場所」などエリア分けをして、より詳しい分析ができるからだ。

最後に、この研究結果を高校生にフィードバックし、同世代が大野市をどのように感じているのか、知ることも地域愛着に繋がると感じた。

なお、本報告は、関西大学環境都市工学部 長井紗羽の卒業研究として実施したものである。

参考文献

- ¹ 総務省統計局：人口推計 2023 年 1 月 1 日現在，閲覧日 2023 年 2 月 2 日
(<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.html>)
- ² 総務省統計局：住民基本台帳人口移動報告書 2022 年結果の概要，2023 年 1 月，閲覧日 2023 年 2 月 2 日
(<https://www.stat.go.jp/data/idou/2022np/jissu/pdf/gaiyou.pdf>)
- ³ 総務省：まち・ひと・しごと創生総合戦略－概要－，2014 年 12 月 27
(https://www.soumu.go.jp/main_content/000332391.pdf)
- ⁴ 独立行政法人 労働政策研究・研修機構：UIJ ターンの促進・支援と地方の活性化－若年期の地域移動に関する調査結果－，2016 年，P14：(<https://www.jil.go.jp/institute/research/2016/documents/152.pdf>)
- ⁵ 藪谷 祐介・阿久井 康平：高校生の通学時における地域接触が地域愛着形成に与える影響－富山県小矢部市内の高校に通学する高校生を対象として－，公益社団法人日本都市計画学会 都市計画論文集，Vol. 56，No. 3，2021 年 10 月
- ⁶ 伊東 英輝：若者の地域資源への関心を高めることによる地域愛着醸成の取り組み－福井県大野市を例に－，関西大学卒業論文，2021 年度
- ⁷ 田原洋樹，住民の消費行動の違いが地域愛着醸成プロセスへ与える影響について－秋川地区における非常設型地域プラットフォームのケースを事例として－，日本地域政策学会 2021 年 3 月
(https://www.jstage.jst.go.jp/article/ncs/26/0/26_84/_pdf/-char/ja)
- ⁸ 福井県大野市：大野市公式ウェブサイト，大野市の施設一覧，閲覧日 2022 年
(https://www.city.ono.fukui.jp/shisei/shisetsu_list/index.html)